

I 研究報告

平成28年度 遺跡整備・活用研究集会 開催概要

■ 開催趣旨

幕末まで政治・軍事の拠点として機能した近世城郭および陣屋の跡は、近代になってその役割を大きく変えました。都市の近代化に伴って軍事施設や行政施設、学校施設、宗教施設などが立地し、桜も植えられ、城跡を利用した公園や庭園も成立します。そして、それらの近現代の遺構は文化財としての指定・登録が進んでいます。

一方、城跡は近世の城郭としての価値を有しているがために史跡指定され、史跡整備ではその価値の顕在化を図ろうとしますが、城跡の整備計画に向かい合う時、城跡の近代以降の歴史的重層性を無視することはできません。そこには様々に価値付けされる近現代の遺構があり、旧藩主や天守など城郭建築に対する地域社会の思いや記憶もあるためです。

近世城跡の近現代を有形無形の両側面からどのように捉えて整備計画に向かい合うべきかを考えます。

■ テーマ 近世城跡の近現代

■ 日 時 平成28年12月16日（金） 9：30～17：00

■ 場 所 奈良文化財研究所 平城宮跡資料館 講堂

■ 発表者（発表順、敬称略）

高木 博志 羽賀 祥二 野中 勝利 内田 和伸

■ 事務局

奈良文化財研究所文化遺産部遺跡整備研究室

内田 和伸 マレス・エマニュエル

■ 参加者

地方公共団体職員・研究者・実務者等 計77名（発表者・事務局を含む）

■ プログラム

9：30	開会挨拶・趣旨説明
10：00	報告① 「“郷土愛”と城跡の近代－藩祖と桜を中心に－」 高木 博志（京都大学）
11：00	報告② 「近世城跡の神社と顕彰碑」 羽賀 祥二（名古屋大学）
12：20	《 休 憩 》
13：20	報告③ 「城址の公園化と風致、模擬天守閣と景観」 野中 勝利（筑波大学）
14：50	報告④ 「近世城跡の近代遺構－建築・公園・庭園－」 内田 和伸（奈良文化財研究所）
16：40	《 休 憩 》
15：30	質疑・総合討議
16：40	閉会挨拶